開催主旨

経済成長を追い求めるあまり、合理化と効率化が迫られる現代。労働は市場化・商品化され、非正規雇用や短期雇用などで「つなぐ」労働になり、更に働く機会を得られずにいる人々が増え続けている今、働くことを通じて、つながり、やりがいを持てる、人間らしい経験や価値観が失われつつある。

同時に、最後のセーフティネットと言われる「生活保護」。その受給者は年々増え、今では、全国で２１５万人が受給している。こうしたなか、各地で社会参加や自立支援への取り組みが始まっている。

今、社会に必要なものは何か。みなさんと一緒に「人間らしく生きる・働く場」としての「まちづくり」に取り組みたい。

櫛部（くしべ）　武俊（たけとし）さんプロフィール

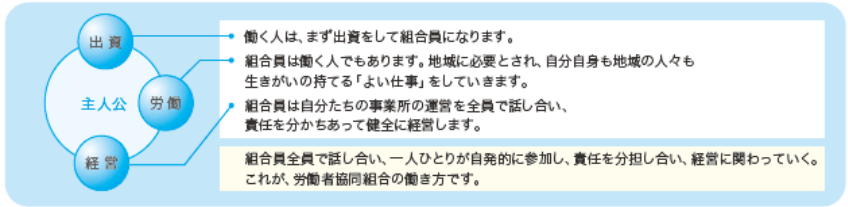
51 年富良野市生まれ。北星学園大学卒業後の 75 年釧路市役所入り。88 年から 11 年の定年退職まで 22 年間、生活福祉事務所のケースワーカーを務めた。現在、生活保護受給者の自立支援を目的とした一般社団法人・釧路社会的企業創造協議会の副代表。共著に「希望をもって生きる―生活保護の常識を覆す釧路チャレンジ」（筒井書房）などがある。

五石（ごいし）　敬路（のりみち）さんプロフィール

日本、韓国の社会政策、社会的企業を中心に研究。アジア開発銀行研究所、東京市政調査会をへて現職。内閣府「パーソナルサポートサービス検討委員会」委員、生活困窮者支援戦略で「生活困窮者の就労支援に関する検討会」委員などを務めた。主著に『現代の貧困ワーキングプア 雇用と福祉の連携策』(日本経済新聞出版社、2011 年）、『東アジアにおけるソフトエネルギーへの転換』(国際書院、2013 年)など。 雑誌『SOCIAL ACTION』編集長。現在、大阪市立大学大学院創造都市研究科准教授。

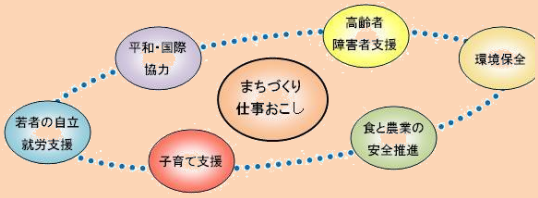
特定非営利活動法人ワーカーズコープについて

日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会センター事業団が母体となっています。ワーカーズコープは、働く人々・市民が、みんなで出資し、民主的に経営し、責任を分かちあって、人と地域に役立つ仕事をおこし、まちづくりをする協同組合です。この働き方を「協同労働」と呼び、雇う雇われる関係ではなく、一人ひとりが主人公となって働く働き方として実践しています。



一般社団法人日本社会連帯機構について

今の社会テーマを自分たちの身近にとらえ、資源（ひと・もの・かね）を出し合い、
さまざまな地域と手をつなぐ（連帯する）ことによって、地域の再生につながる活動をします。
自らが暮らすまちや職場で市民一人ひとりが、日々の暮らしや仕事から発見した、
社会的な課題に向きあい「仕事の範囲」を超えて、地域で協同と連帯を生む活動に取り組みます。



― 連帯の力で築こう人の絆、地域の活力。